

社会的活動報告

二婆とのんちゃんの無人販売

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 2回生 木原 望実

私が仁愛女子短期大学で育てたさつまいもを森田駅で販売しようとしたのですが、収穫した野菜が足りなかったので、私の祖母のしげ婆ちゃんと友達の祖母のえつ婆ちゃんから野菜を預かり、「二婆とのんちゃんの無人販売」を実施しました。

野菜の値段がわかるようにポスターを制作しました。(図1) 緑・黒・白の3色と決めて作成しました。二婆とのんちゃんの似顔絵のイラストを描いて生産者が分かるよう工夫しました。

[販売期間] 2022年10月7日(金)から10月31日(月)

[販売場所] 森田駅内の夢ギャラリー森田(図2)

1週間ごとに新しい野菜を置きました。

[販売した野菜 単価 個数] (図3)

- ・さつまいも (@30円)6コ
- ・ドデカさつまいも (@30円)10コ
- ・じゃがいも (@10円)42コ
- ・ピーマン (@20円)172コ
- ・たまねぎ (@20円)10コ
- ・かぼちゃ (@50円)1コ
- ・にんにく (@200円)7コ
- ・なす (@30円)9コ
- ・ヤマボウシの苗 (@150円)1コ

無人販売で集まった金額は2038円でした。6410円売上があるはずでしたが、現金差が4372円発生しました。現金差が発生した原因は、①ポスターの金額が見にくかった。②お金入れに蓋がない箱だったからお金がとられた。の2つだと考えました。思ってた以上の売上はありませんでしたが、無人販売は家では食べきれない野菜を販売できたので、他者が消費できないものを別の人が消費する事になり「12つくる責任つかう責任」SDGsの考えに繋がっています。

森田駅でのこの企画は電車を利用する方に別の目的が増え、森田駅が普段より賑わっていました。

えつ婆ちゃんとの交流から「人から良いことをされると何かお返しをしたくなる」という考え方を学びました。またえつ婆ちゃんとは、顔見知りではあったものの、今回をきっかけにお話できて楽しかったです。しげ婆ちゃんとも話す頻度が多くなり、無人販売を通して、しげ婆ちゃんやえつ婆ちゃんの暮らしは「つくる」側の生活ということが分かりました。祖母たちは野菜を栽培し、収穫した野菜で料理をします。今の私は「買う」側の生活をしていますが、これからは「つくる」側の生活もしていきたいと思いました。



(図1) ポスター



(図2) 二婆とのんちゃんの無人販売



(図3) 販売した野菜(一部)